

関取濡髪
名取放駒

ふたつちようちようくるわにつき

双蝶々曲輪日記

- 堀江相撲場
- 大宝寺町米屋
- 難波裏喧嘩
- 八幡里引窓
- 橋本

寛延二年（二七四九）大坂竹本座初演。並木宗輔、三好松洛、二代目竹田出雲による合作。「山崎与次兵衛寿の門松」（享保三年（二七一八）竹本座初演）と「昔米万石通」（享保十年（一七二五）大坂豊竹座初演、西沢一風・田中千柳作）を踏まえ、山崎与次兵衛と遊女吾妻の恋と

二人の相撲取り濡髪長五郎と放駒長吉の逢引を絡めて脚色。「米屋」では長吉が姉の意見、「引窓」では長五郎が老母の意見を受け入れ、少年から青年へと成長する物語。さながら文楽版（映画）スタンド・バイ・ミー。

◆浄瑠璃本（七行本）の内題は「双蝶々曲輪日記」と表記する。
◆「堀江相撲場」は「角力」と表記されたこともある。／「難波裏喧嘩」は「難波裏殺し」という段名で上演されたこともある。

◆「鬼界が島」は「俊寛」と副題がつく公演もあった。

へいけによごのしま

平家女護島

- 六波羅
- 鬼界が島
- 舟路の道行より敷名の浦

享保四年（二七一九）大坂竹本座初演。近松門左衛門作。平家全盛の時代を描く作品で、現在は鹿ヶ谷の陰謀で鬼界が島に流された俊寛を主人公とした二段目の「鬼界が島」を中心に上演される。「平家物語」「足摺」に描く、俊寛だけが島に取り残される話を

脚色したもの。丹波の少将成経は、海士千鳥と夫婦となる。その日、赦免の使いが来るが千鳥の乗船は許されない。千鳥が「鬼界が島に鬼はなく鬼は都に有けるぞや」と嘆くと、船中から夫でなく、俊寛が駆け下りる。